

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	音 楽
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第 1 学年	・音楽を体で感じ取りながらリズムに乗って楽しく歌っている。 ・身体表現やリズム遊び、簡単な打楽器の演奏など意欲的にこなっている。 ・鍵盤ハーモニカの学習ではタンギングがまだ身についていない。	・音楽に集中して耳を傾けられるような仕掛けや投げかけを工夫する。 ・身近な楽器にふれる機会を多く設け、拍やフレーズを感じながら演奏できるようにする。 ・鍵盤ハーモニカの学習では基本的な奏法を個別指導で身につけさせ、楽しみながら学習できるように工夫する。	・音楽の要素を体で感じ取って習得するようにする。 ・いろいろな楽曲にふれさせ、身体表現をしたり絵などで表したりすることにより、豊かに音を感じとれるように工夫する。
第 2 学年	・のびのびと音楽活動に取り組んでいる。グループによる表現活動も友達同志関わり合いながら意欲的に取り組める。 ・鍵盤ハーモニカでは技能の差がある。	・お互いの歌声や演奏を聞き合い個々のよさに気付かせる。 ・教材を工夫し、鍵盤ハーモニカの段階的指導得を計画的に行う。 ・グループ学習で楽しみながら、技術の向上を図る。 ・様々なリズムや、リズム楽器を経験させる。	・録音された自分たちの歌や演奏を聴き合い、話し合いの中でより良い演奏ができるようにする。 ・日常的に発表する場面を設ける。 ・リズム感を養う教材を用意する。
第 3 学年	・歌唱に対しては声の出し方を意識しながら声を響かせるようになってきている。 ・リコーダーの学習については技術に個人差があるが意欲的に取り組んでいる。	・みんなの手本となる表現をしている児童からお互い学びあえるように学習活動を工夫する。 ・リコーダーの学習に遅れがみえる児童は個別に対応する。聞き合い・教え合いの活動を多く取り入れ、技術面の全体的な向上を図る。	・録音された自分たちの歌や演奏を聴き合い、話し合いの中でより良い演奏ができるようにする。
第 4 学年	・音楽活動全般に関心が高く、内容を考えながら表現しようとしている。 ・リコーダーの技能に個人差はあるが、課題に対して意欲的に取り組むため、課題解決力は高い。	・学習カード・評価カードを工夫し、上達していることを児童自身に実感させることで自信を持たせる。 ・短い楽曲での読譜を数多く経験させ読譜力の向上を図る。 ・鑑賞と表現活動の一体化を図ることで、音を感じたり創って表現したりできる能力を育てる。	・録音された自分たちの歌や演奏を聴き合い、話し合いの中でより良い演奏ができるようにする。 ・意欲を喚起するため、スモールステップで学習が進められる教材を用意する。

第5学年	・音の重なり、響き合いを意識して聴いたり、演奏したりしつつある。 ・音楽への興味関心は高いが、人前で表現することに消極的な面が見られる。	・学習カードや評価カードの活用により個人の努力や工夫を見取り、適切に評価し、きめ細やかな助言をすることで意欲を高める個別指導をおこなう。 ・スモールステップで学習を進め、できた喜びや達成感を味わわせながら、自己表現に自信をもたせる。	・協力して音楽を創り上げる態度を育てる。 ・個の習熟度にあわせてスモールステップで向上できるように、難易度の違う課題を用意する。
第6学年	・音の重なり、響き合いを感じようとしている。 ・自主的な練習を進んで行い意欲的に課題解決に取り組む。 ・友達の表現の良さに気づかせることが課題である。	・個別指導と同時に、アンサンブルの機会を増やし、互いの演奏に関心を持たせる。 ・学習カードや評価カードの活用により個人の努力や工夫を見取り、適切に評価し、きめ細やかな助言をすることで意欲を高める。	・協力して音楽を創り上げる態度を育てる。 ・より高い水準の達成感を持たせるために、難易度の違う楽譜を何種類か用意する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	図 工
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第 1 学年	・いろいろな材料を使って表現することに喜んで取り組んでいる。 ・はさみやのりなどの用具をうまく操作できない児童もいる。また、立体作品を平面的に表現する児童もいる。	・場と時間を保証し、様々な材料に触れる経験を積ませ、用具の使い方を身に付けさせる。素材をさわる、握る等の直接体験を多くさせるとともに、粘土や工作などで三次元の感覚をつかむ経験を多く取り入れる。	・学校行事や学級活動などに絵画などをできるだけ取り入れ、創作する楽しさを味わわせる。 ・友達と互いの作品を見合うことにより、様々な発想の在り方や表現の方法を学ぶ機会を持たせる。
第 2 学年	・絵や工作など表現することが好きな児童が大部分で、意欲的に取り組んでいる。アイデアを表現するために素材を上手に利用する方法を体験したり、はさみやのりなどの使い方を身に付けたりすることが必要である。	・材料を並べたり、つないだりして、手や体など全体を働かせ、体全体の感覚で感じる造形活動を取り入れる。基本的な用具の使い方に慣れさせるような場を授業の中で取り入れる。	・図工の授業時間に限らず、日常生活の中ではさみやのりなどを使う場面を増やし使い方に慣れさせる。 ・描いたり作ったりした造形的なおもしろさなどを友達の参考作品に触れる中で気付かせて、楽しく見る場面を作る。
第 3 学年	・友だちの作品の「工夫のよさ」に気づくような場面を多く設定していくことが課題である。	・鑑賞の時間を設け、気づいたことの交流を行う。 ・技能面で、基本的な用具の取り扱いに十分に慣れさせ、さらに発展的に取り扱うことができるように指導する。	・素材との出会い方の工夫と多様な表現方法のあり方を示す。 ・多くの表現方法にふれさせる。
第 4 学年	・発想が広がりすぎてアイデアがまとまらなかったり、時間内に完成できなかったりする様子が見られる。	・思い付いたことを聞きながらアイデアをまとめる支援を行い、製作時間や進度を話してできる範囲を想像できるようにする。	・制作過程の提示、実物資料や掲示資料の充実など具体的な手がかりを示す。
第 5 学年	・発想の広がりや表現の工夫、自分なりのこだわりに個人差が見られる。 ・表現したいことに合わせて用具や方法を効果的に使えない様子が見られる。 ・時間内に完成させるという意識が薄い児童が 10%程度いる。	・互いに作品を鑑賞し合い、表現について話したり、書いたりする機会を設定し、表現の多様性への関心を高める。 ・友達の表現や作品の画像を大型テレビに映し、具体的に工夫するとよいポイントを示し、工夫を促す。 ・児童の思いを聞く時間を増やし、表現したいことについて話し合ったり効果的に表現できたことについて紹介したりする。	・友達や身近な美術作品など多様な表現方法に触れさせ、自分の好きな表現に気づかせる。 ・制作過程の提示、実物資料や掲示資料の充実など具体的な手がかりを示す。 ・1学期前半の授業の振り返りをもとに自分なりの目当てをもたせる。

		活動の見通しをもたせ、毎時間、 進度の確認を行う。	
第6学年	・発想の広がりや表現の工夫、自分なりのこだわりに個人差が見られる。 ・時間内に完成させるという意識が薄い児童がいる。 ・表現したいことに合わせて用具や方法を効果的に使えない様子が見られる。	・互いに作品を鑑賞し合い、表現について話したり、書いたりする機会を設定し、表現の多様性への関心を高める。 ・友達の表現や作品の画像を大型テレビに映して具体的に工夫するとよいポイントを示し、工夫を促す。 ・児童の思いを聞く時間を増やし、表現したいことについて話し合ったり効果的に表現できたことについて紹介したりする。 活動の見通しをもたせ、毎時間、 進度の確認を行う。	・友達や身近な美術作品など多様な表現方法に触れさせ、自分の好きな表現に気づかせるとともに多様な価値観があることに気付かせる。 ・制作過程の提示、実物資料や掲示資料の充実など具体的な手がかりを示す。 ・1学期前半の授業の振り返りをもとに自分なりのめあてをもたせる。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	家 庭
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第 5 学年	・ 基礎的な技能の習得、基本の定着に力を入れている。しかし、約 5 % の児童に関してはまだ不十分である。	・ 個別指導の徹底をはかる。 ・ 一人一人に応じて興味のもてる授業の展開をはかる。 ・ 授業形態等の工夫により、学びあえる環境を作る。	・ 基本的なことにじっくり取り組める学習計画を立てる。 ・ 各自創意工夫が作品反映される教材を工夫する。 ・ 調理実習において、一人一人に基礎的な技能を習得させるために、実習のねらい・グループ編成の方法等で工夫する。
第 6 学年	・ 基礎的な技能の習得、基本の定着に力を入れている。しかし、3 % の児童に関しては、不十分である。	・ 個別指導の徹底をはかる。 ・ 一人一人に応じて興味のもてる授業の展開をはかる。 ・ 授業形態等の工夫により、学びあえる環境を作る。	・ 一人一人のめあてを明確にし、児童が課題解決に取り組める時間を計画的に確保する。 ・ 各自創意工夫が作品反映される教材を工夫する。

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	体 育
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第1学年	・様々な運動に楽しみながら取り組み、幅広く技能を高めてきている。日常から進んで運動に親しんでいる児童とそうでない児童が見られる。	・さらに仲間とかかわって運動を楽しめるよう、グループでの運動や、ゲームを取り入れる。学習後に運動の心地よさを振り返る場面を設け、今後の運動意欲向上につなげていく。	・日常から進んで体を動かして遊ぶ意欲をもたせていく。保護者にも協力を要請し体力向上を図る。
第2学年	・いろいろな運動に親しみながら、幅広く技能を高めてきているが、さらに運動経験を積む必要がある。日常から進んで運動に親しんでいる児童とそうでない児童が見られる。	・仲間とかかわって運動を楽しめるように、グループでの運動やチームゲームを取り入れる。学習後に運動の楽しさや、心地よさを振り返り、次の運動への意欲、運動の日常化を促していく。	・日常から進んで体を動かして遊ぶ意欲をもたせていく。自分の体を使った(自体重)動きを取り入れていく。保護者にも協力を要請し体力向上を図る。
第3学年	・日常的な運動経験、学習への意欲が十分にある児童とそうでない児童がいる。中学年としての基本的な技能をしっかりと身につけさせる必要がある。	・学習カード等を活用し、どの単元でもめあてをもって運動させる。チームでの教え合いを重視し、仲間とかかわって運動させる。楽しい体験をたくさんさせ、運動の日常化を促す。	・保健の領域では、養護教諭や栄養士と連携して授業を行う。日常から進んで体を動かして遊ぶ意欲をもてるよう保護者にも啓発していく。
第4学年	・器械運動、走運動、水泳などに取り組み、技能を高めてきている。日常から進んで運動に親しんでいる児童とそうでない児童が見られる。基礎的な技能を身につけられるよう指導が必要である。	・学習カード等を活用し、めあてをもって運動に取り組み、授業後には学習を振り返るよう、授業改善を行っている。技能の高まりを実感させ運動の楽しさを味わわせる具体的な言葉かけをする。保健領域については、養護教諭や栄養士との連携を図り、組織的に指導していく。	・普段の生活での運動への二極化傾向がみられる。休み時間や、放課後も進んで体を動かして遊ぶ意欲をもてるよう声をかけ、保護者にも啓発していく。
第5学年	・運動が得意な児童と苦手な児童との差はあるものの、体育の学習では全体的に進んで運動に取り組んでいる。 ・日常的に運動に取り組む児童と、そうでない児童との差が大きく見られる。	・学習カード等を活用して、自分が身に付けたい技能ポイントを明確にし、めあてをもたせることで技能の向上を図り、基礎的・基本的な動きができるようにする。 ・様々な活動でグループ活動を取り入れ、教え合い、学び合いの効果を実感させ、上達する喜びや、友達と協力する気持ちを育て、運動の日常化につなげる。	・休み時間の外遊びを奨励し、日頃から運動に親しむ環境をつくる。体育の学習内容を工夫し、様々な運動を紹介しながら、運動の楽しさを伝え、運動の日常化につなげる。
	・日常的な運動経験、学習への意欲が十分にある児童とそう	・学習カードを活用して、自分が身に付けたい技能ポイントを明確に	・保健の領域では、養護教諭や栄養士と連携して授業を

第6学年	でない児童がいる。技能が高い児童がいる半面、高学年としての基本的な技能が身につけていない児童が10%程度いる。	し、めあてをもって運動させていく。 ・トリオ学習やチームでの教え合いを重視し、仲間とかかわって運動させる。一人一人の技能を確実に高め、楽しさ体験をたくさんさせ、運動の日常化を促す。	行う。休み時間など日常から進んで体を動かし、運動に親しむ環境をつくるよう、保護者にも啓発していく。
------	---	---	---

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	外国語
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第5学年	・普段使うことの少ない言葉に慣れるために、話をよく聞いてさらに言葉を繰り返し練習している。興味関心をもてるようにする。	・使い慣れない言葉を繰り返し聞くことで慣れるとともに、友達とのかかわりの中で言葉を発していく大切さを学べるようにする。	・教室での朝の歌、習った内容を日常的に使う機会をつくる。 ・系統だった学習指導計画になるようにする。
第6学年	・聞き取った言葉を使って、会話をしようとしている。既習事項を思い出しながら、自ら進んで外国語を楽しもうとしている。大きな声で自分から発信できるようにする。	・学習意欲が高まるようにさまざまな活動を取り入れ、進んで外国語にふれられるようにする。また、友達と交流することで異文化を理解し、身近な生活の中で使っていけるようにする。	・5年生で学習した内容・言葉から語彙数を増やしていけるように、会話の内容を複雑化させる。 ・次の時間やその後に役立つ計画を立てる。